

『かんたん算数授業づくりシート』

□ 1時間の授業構想シート（作成時間 約10～15分）

(/)も明記

マニュアル

単元名

まずは、この1時間で何を学ばせるのか

①めあて

(教えること)

その時間に教えなければならないこと(子どもの目標、めあて等)

- 指導書の本時の目標を参考を書く。
- 身に付けさせる力が分かるように書く。

学ばせることが決まれば、何をどのように考えさせるのか

②考えさせること

(メタ認知的知識)

本時で考えさせること(発問、子どもの反応等)

- 本時で児童に考えさせることを書く。本時の問題だけでなく、他の問題に出合ったときにも活かせる力(一般化できる力)として書く。
- 教師の発問や子どもの反応、つぶやきを書く。

③問題との出会い

- ・必然性(解きたい)
- ・驚き
- ・既存の知識とのズレ
- ・前時とのつながり

学習意欲を引き出す、主体的な学び手を育てる導入の工夫(問題提示の具体をかく)

- 解いてみたいと思う問題の出し方を書く。
- 前時までの問題との違いを意識させるような提示の工夫を書く。
- 前時とのつながりを大事にする。例えば児童の振り返りの紹介から始めるといった工夫を書く。
- 情報過多、情報不足による問題提示の工夫を書く。

解いてみたいやってみたいの気持ちを持たせる

インタラクティブ(双方向)

先生が言うから解くのではなく

④導入から展開へ

のつながり

- A: 教えて→確かめ
- B: 比較→自己決定
- C: 問題解決型

主体的・協働的な「学びあい」の具体的な姿(綾小例)

- 公式など結論を先に示し、本当かどうかみんなで確認していく。(Aパターン)
- 2つ以上の考え方を提示、比較し、自己決定させる場面を設定していく。(Bパターン)
- 問題把握から気付いたことを交流し、見通しの時間へとつなげていく。(Cパターン)
- 上記の3つのパターンの組み合わせ
- 子どもの反応や予想される答え、つぶやき等を書く。
- 教師の切り返しの言葉も書く。

※各校の授業スタイルに合わせて行う。

練習問題で定着度を把握

⑤まとめ

本時で押さえないといけないこと、定着を図る練習問題

- ①のめあてを基にし、本時のまとめを書く。
- 本時の学習内容を評価するための練習問題を設定する。
- 『感動算数』につながるまとめを意識する。

感想ではなく、学びの跡を書かせる

⑥練習問題

⑦振り返り

常に、最初と最後を意識して

メタ認知育成につながる振り返り

- 感想ではなく、児童に書かせたい振り返りを予想して書く。
- 「～を使うと便利だ。」「～に気を付けよう。」といったメタ認知を意識した振り返りを書く。